

2026 年度専門学校長野ビジネス外語カレッジ 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自：2025 年 4 月 1 日
至：2026 年 3 月 31 日

専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価委員会

学校関係者評価の概要と実施状況

専門学校長野ビジネス外語カレッジ学校関係者評価委員会は「2025 年度自己点検・自己評価結果」を基に学校関係者評価を行った。その結果を以下のとおり報告する。

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

専門学校 長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を以下のように定める。

①自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②本校と密接に関係する団体、企業の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

専門学校長野ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、文部科学省が発行する『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とし、日本語学科についての評価検討については、「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠したうえで、「日本語教育機関認定法」・「日本語教育機関の告示基準」・「日本語教育機関の告示基準解釈指針」も併せて参照する。

3) 委員会運営

2026 年度における学校関係者評価委員会は、以下のように年 1 回開催する。

前半部、学内委員による 2025 年度（前年度）教育活動報告・運用実績に対する学校自己点検自己評価の結果総括、2026 年度事業計画のご説明

後半部、外部委員による評価報告、審議

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏 名	所 属	
水野 泰雄	有限会社デザインルーム エム	企業・業界団体関係者 評価委員長
三木 一隆	AREC 浅間リサーチエクステンションセンター	企業・業界団体関係者
森腰 淳	行政書士森腰淳法務事務所	企業・業界団体関係者
山崎 博昭	上田商工会議所	企業・業界団体関係者
高畠 智美	金沢大学 人間社会研究域 国際学系	企業・業界団体関係者

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

2026 年度学校関係者評価委員会		
日時：2026 年 7 月 31 日（金）14：00～16：00		
場所：上田市交流文化芸術センター（サントミューゼ）第一会議室		
会議次第		
時間	項目	担当者
14：00	開会挨拶	荻野理事長
14：05	学校長挨拶	小林校長
14：10	外部委員・学校委員紹介	堀内委員
14：15	学校関係者評価の概略	武藤委員
14：25	2025 年度教育活動ご報告	中林委員
14：35	2025 年度進路結果サマリー	高木（良）委員
14：45	2026 年度事業計画及び 2025 年度学校自己点検自己評価結果総括	武藤委員
15：15	各評価委員の皆様からのご意見ご要望・審議	各委員
15：45	評価委員長 総括	水野委員長
15：55	閉会挨拶	高木（裕）委員

4. 基準項目ごとの学校関係者評価

第 1 部 学校運営全体 自己点検自己評価について

1 教育理念・目的・育成人材像等

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高畠	5	4	3	2	1
コメント					
・教育理念や育成人材像が明確で、教育活動全体に一貫して反映されている点を評価する。 ・専門学校と日本語学校を有する教育機関としての特長を生かして、個々を大切にする人材育成に取り組んでいる。今後も社会ニーズに応じた継続的な見直しに期待する。 ・今年度は「認定日本語教育機関制度」への対応を進め、教育活動全体への理念の反映や質保証体制の整備に取り組んでいる点は評価できる。 ・ホームページでの教育理念等の掲載箇所がやや分かりにくいいため、アクセス性の向上が望まれる。					

2 学校運営

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	④	3	2	1
三木	⑤	4	3	2	1
森腰	⑤	4	3	2	1
山崎	5	④	3	2	1
高畠	⑤	4	3	2	1
コメント					
・組織運営やPDCAの仕組みは概ね適切である。学生数増加に伴う意思決定や情報共有の迅速化が進めばさらに良くなると考える。 ・運営は適正になされている。学校の規模からして、校務分掌が必要なので、委員会等の体制は柔軟性を持って対応していく必要があると感じる。 ・組織規模の拡大に伴う課題を的確に把握している。教職員間の情報共有の迅速化や業務の標準化、デジタルツールによるDX化の推進は、業務の属人化を防ぎ、教員の負担を軽減するうえで重要である。引き続き、教員が教育活動に専念できる体制づくりを進めることを期待する。 ・学校規模が拡大する中、問題発生時における責任所在の明確化、エスカレーションルールの詳細な策定が進められている点は評価できる。各事態に応じて迅速かつ柔軟な対応が可能となるよう、教職員への周知徹底と事例の共有・検証が期待される。					

3 学生支援

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	④	3	2	1
三木	⑤	4	3	2	1
森腰	5	④	3	2	1
山崎	⑤	4	3	2	1
高畠	⑤	4	3	2	1
コメント					
・多様な学生に対して、それぞれの実情に合わせたきめ細かい支援を実施している。学生情報のデータベース化などを推進し、実効性のある支援へ、更に力を注いでほしい。 ・卒業生のフォローアップは高等教育機関共通の課題ではあるが、可能な限り把握に努めてほしい。 ・急速な学生数の増加に対し、デジタルツール等を活用して支援体制の効率化を進めている点を高く評価する。留学生のアルバイト先の開拓や地域社会への適応は引き続き重要な課題である。 ・学習・生活面での細かな支援や、教職員による進路指導體制の整備については高く評価できる。 ・学生のニーズによっては、内部進学生や卒業生との懇談会等、より具体的に自身の進路をイメージできる場が提供できると良いのではないかと。					

4 教育環境

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	④	3	2	1
三木	5	④	3	2	1
森腰	5	④	3	2	1
山崎	5	④	3	2	1
高畠	⑤	4	3	2	1
コメント					
・教育環境面からも、例えば、生成 AI 活用、長期インターンシップ、他の高等教育機関との単位互換なども検討され、教員の負担軽減を図ってもらいたい。 ・学生数の増加に伴う教室利用の逼迫や施設設備の老朽化は、早急に対応が必要な課題である。すでに大規模修繕計画の策定や、自習スペースなど学習環境の拡充に向けた検討を進めているとのことなので、着実なインフラ整備と ICT 環境の充実を期待する。 ・施設・設備や防災体制に関する課題の抽出と対応策の検討が進められており、計画に沿った確実な実施が期待される。 ・キャリア教育としても重要な学外実習やインターンシップ等については、受入機関側の利点や意義を整理、可視化する等して、更なる拡充が期待される。					

5 財務

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	⑤	4	3	2	1
三木	⑤	4	3	2	1
森腰	⑤	4	3	2	1
山崎	5	④	3	2	1
高畠	⑤	4	3	2	1
コメント					
・安定した財務基盤と適切な予算・監査体制が整備されており、健全な学校運営が行われていると評価する。 ・財務関係の諸表は HP で公開されている。中長期的な学生数減少への戦略を立案していく必要性を感じる。 ・学生数の増加等により、安定した財務基盤を維持していると考ええる。昨今の物価上昇や設備修繕などの課題に対しても、この基盤を活かし、適切な予算執行と教育環境への計画的な投資を続けることを期待する。 ・適切に計画、管理が行われていると理解した。					

6 法令等の遵守

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高畠	5	4	3	2	1
コメント					
・法令遵守や在留管理、個人情報保護への取組は適切であり、継続した研修と啓発活動に期待する。 ・入学者の大幅な増減による瑕疵、手落ちが生じないように注意してほしい。 ・認定日本語教育機関制度への対応などを通じて、法令遵守体制が強化されている点を評価する。今後も継続的な研修や事例共有を通じて、教職員のコンプライアンス意識を高め、適切な学校運営を維持することを期待する。 ・社会や学習者からの要請が一層厳しくなっており、教室内での教員の言動（学生の呼称やグループ編制時の配慮等）においても留意が求められる。教員に対しては、具体的事例の共有や研修等を継続的に実施していく必要があると思われる。					

7 社会貢献

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高畠	5	4	3	2	1
コメント					
・地域企業や自治体、教育機関との連携を積極的に進め、多文化共生や国際交流を通じて地域社会への貢献が図られている点は高く評価できる。一方で、教育資源の地域へのさらなる開放や、生涯学習・地域連携事業の充実など、社会貢献活動をより広く発信・展開することで、学校の特色や存在価値が一層高まることを期待する。 ・地域社会との連携は大切であるが、留学生が在籍者の多くを占め、そのほとんどが休日はアルバイトなどで忙しくしているかと思うので、休日を使つてのボランティア活動への参加は難しいかもしれない。ボランティア活動を推進している大学等の取り組みを参考し、無理のない形での連携の仕方を探していくのがいいかと考える。 ・地域行事への参加や国際交流活動を通じて、地域活性化や多文化共生に大きく貢献している点は大きな実績である。					

・多様な機関との連携は、「地域に開かれた学校」としての社会的認知を高めると共に、求職者の貴校に対する肯定的なイメージの醸成にもつながると考えられる。

第2部 専門学科 自己点検自己評価について

8 教育活動

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高畠	5	4	3	2	1
コメント					
・教育理念に基づいた実践的な教育活動が行われており、企業連携や地域との協働を通じて学生の実践力向上に努めている点を評価する。今後は、AIやDXなど社会の変化に対応した教育内容をさらに充実させ、教育の質の向上を期待する。 ・学科・コースの育成方針が明確に示されていて、その教育課程も適切なものとする。学生が多様化する中で、その到達レベルに則した指導は大変だが、教員の更なる努力と工夫を願う。一例として、外部での学生発表等は、教員は大変だが、学生にとっては大きな財産になると考える。 ・企業連携やキャリア支援を中心とした実践的な教育は高く評価できる。一方で、学生の多様化や教育内容の高度化に伴い、教育品質の均質化が課題として挙げられている。教員の指導力向上に向けた研修の充実や、組織的な教育品質管理の仕組みづくりを進めることを期待する。 ・企業等との連携による業界ニーズの把握と、それを反映した教育課程の実践は評価に値する。 ・認識された課題（教育品質の安定化）に対する改善策の確実な実施が求められる。					

9 教育成果

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高畠	5	4	3	2	1
コメント					
・就職・進学支援をはじめ、学生一人ひとりに応じたきめ細かな指導が成果につながっていると評価する。今後は卒業生の活躍状況や教育成果を継続的に検証・分析し、教育改善へさらに活かしてい					

くことを期待する。

- ・非常に高い就職率を継続していることは素晴らしい。今後も社会に求められる資質を有した学生の育成が続けられたい。
- ・今年度はより力を入れた資格取得活動がおこなわれている。
- ・近年、高い就職水準を維持していることは大きな成果である。卒業生の就職後の長期的な動向や定着率を把握し、それらを在校生の指導や教育内容の改善に活かす仕組みをさらに強化すると良い。
- ・就職率を高水準で維持していること、資格取得率の向上や退学率の低減が図られていることから、適切な教育、及び、学生支援が行われていると判断できる。

10 入学者の募集と選考

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高畠	5	4	3	2	1
コメント					
・学校の特色や教育内容を分かりやすく発信し、公正・適切な募集・選考が行われていると評価する。今後は少子化や留学生を取り巻く環境の変化を踏まえ、多様な広報活動や地域との連携強化により、安定した学生募集につなげていただきたいと思います。 ・適正かつ熱心に募集活動を行っていると評価されるが、国際コミュニケーション学科の入学者数がグローバルビジネス学科と比べて少ないことが気に掛かる。今後安定した入学者数を維持するための対応策が必要と思われる。 ・募集活動、選考ともに適切におこなわれている ・多様な広報媒体やデジタルツールを活用し、定員充足に向けた適切な募集活動を行っている点を評価する。今後は人数の確保だけでなく、学科の特色や教育内容と学生のニーズが合うよう、マッチングを重視した募集戦略を引き続き進めることを期待する。 ・「現状・具体的な取り組み」の記述が具体的で、自己評価の妥当性をスムーズに検討できた。					

第3部 日本語学科 自己点検自己評価

1.1 教育理念・教育活動

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1

森腰	⑤	4	3	2	1
山崎	5	④	3	2	1
高畠	⑤	4	3	2	1
コメント					
・認定日本語教育機関として教育理念に基づいた質の高い教育活動が実践されており、多文化共生を意識した学習環境や生活支援も充実している点を高く評価する。今後も継続的な教育の質向上を期待する。 ・認定日本語教育機関として、適正な教育を行っていると思う。 ・認定日本語教育機関制度への対応を最重要課題として位置づけ、日本語教育の参照枠を意識したカリキュラム運営や成績評価基準の明確化に取り組んでいる点を高く評価する。今後も学習者の多様化に応じた教育内容の改善と、教員間での評価基準の共有を進めてほしい。 ・新制度に対応した教育課程・成績評価・運営体制の整備を行い、認定につなげたことは大きな成果と言える。継続的な改善サイクルが検討されていることも評価に値する。 ・日本語教育を取り巻く社会環境の変化に伴い、教職員間での情報共有が求められるが、特に制度等の周知にあたっては、断片的な情報提供にとどまらず、全体の枠組みを体系的に理解できる研修や情報共有の仕組み作りが求められる。					

1 2 教育成果

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	④	3	2	1
三木	⑤	4	3	2	1
森腰	⑤	4	3	2	1
山崎	5	④	3	2	1
高畠	⑤	4	3	2	1
コメント					
・日本語能力の向上だけでなく、進学・就職を見据えた指導や生活支援が適切に行われ、教育成果が着実に現れていると評価する。今後は卒業後の進路実績や学習成果の分析を進め、さらなる教育改善につなげることを期待する。 ・進学、就職に確実に結びついている。学生の進路希望は勿論だが、そればかりではなく、個々にとって最適と思われる道にこれからも導いてほしい。 ・成績判定基準及び判定方法を明確に定め、適切におこなわれている。 ・外部の日本語資格試験等の結果を継続的に把握し、進路指導に活用している点は評価できる。今後は、留学生の卒業後・退学後の進路状況の把握や、卒業生ネットワークの活用を通じて、日本語教育の成果を客観的に検証する体制づくりを期待する。 ・(受験機会の確保など現実的な制約を踏まえて選定されている経緯は理解するが、) 認定日本語教育機関制度に対応した教育目標、到達目標や教育課程と整合性のある教育成果を示すエビデンスとして、					

JLPT が適切かどうかについては疑問が残る。(Cando が測れる何かしらの成績評価指標を JLPT の代わりにするといいいのでは)

・自己評価では、「卒業生の連絡先を確保しているか・卒業後の情報取得に努めているか」という視点で評価を行っているが、「卒業時点で進路を確保している」という点も教育成果の評価項目に含めてもいいのではないかと。

1 3 入学者の募集と選考

5.適切 4.ほぼ適切 3.どちらともいえない 2.やや不適切 1.不適切

委員名	評価				
水野	5	4	3	2	1
三木	5	4	3	2	1
森腰	5	4	3	2	1
山崎	5	4	3	2	1
高島	5	4	3	2	1
コメント					
・海外教育機関との連携や適正な選考体制のもと、教育理念に沿った学生募集が行われていると評価する。今後も入学後の学習意欲や適性を踏まえた募集活動を継続し、質の高い学生確保に努められることを期待する。 ・外部からみると、日本語学科の専門学校長野ビジネス外語カレッジ内での位置付けが、若干不明確である。例えば、専門学科の HP から日本語学科の HP へ誘導するような工夫がほしい。 ・WEWORLD グループの理念等が HP にて公開されており、適切におこなわれている。 ・多言語での情報提供や、適正な基準に基づく入学選考を行っている点は重要である。多様な国籍の入学者を受け入れるにあたり、入国管理や生活面のサポートも含めた包括的な受け入れ体制を今後も維持・強化することを期待する。					

5. 外部委員による総評

学校による自己評価は概ね妥当であると評価する。

今回の自己点検及び学校関係者評価委員会で見えた課題等を今年度以降の学校運営に活かし、質の向上を図っていくことを期待する。

AI 時代においては知識の習得だけでなく、学んだ知識を実践で活用する力を育成することが重要であり、実践的な教育が学生の意欲向上につながる。また、地域との連携や DX の推進を一層進めるとともに、上田市との新たな連携も視野に入れながら、教育の質の向上に継続して取り組んでいっていただきたい。

以上

2026 年 7 月 31 日

専門学校長野ビジネス外語カレッジ

学校関係者評価委員会